

## 研究名

外来がん化学療法患者における薬剤師の介入状況と転帰に関する調査

### 1. 研究の対象

2021年9月から2022年8月に当院外来がん化学療法が施行された患者300名

### 2. 研究目的・方法

現在、がん化学療法の多くは外来で行われており、がん患者の精神的なケア、抗悪性腫瘍剤の副作用等の管理の重要性が増してきている。2014年度の診療報酬の改定においてがん指導管理の充実を目的に「がん患者指導管理料」が新設され、医師、看護師だけではなく薬剤師の役割も明記されている。その後、2020年度の診療報酬の改定で、外来がん化学療法の質の向上を目的に「連携充実加算」が新設された。患者に副作用の発現状況、レジメン内容を提供し、患者の状態を踏まえた必要な指導を行うと共に、地域の薬局に勤務する薬剤師を対象として研修会の実施等の連携体制を整備している場合に算定が可能となる。恩賜財団済生会横浜市南部病院（以下、当院）でも算定要件を整備して2022年3月より算定を開始している。外来がん化学療法施行患者に対する薬剤師の服薬指導の有用性に関しては検討されており、当院でも服薬指導を重点的に行っていたが、個々の患者状態に応じた患者指導や副作用等Grade評価はできていなかった。そこで本研究では、今回の連携充実加算開始前後で、薬学的介入を行った症例を調査し、個々の患者に応じた薬学的管理状況及び従事した薬剤師へアンケート調査を行ったので報告する。

### 3. 研究に用いる情報の種類

電子カルテ患者情報（後向き研究）

### 4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

### 5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 海野 祥生

### 6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問合せください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 海野 祥生、加藤 一郎